

担当科目に関する一考察
——オンライン科目と対面科目の評価——

A Consideration of the Subjects in Charge

——Evaluation of online and face-to-face subjects——

小堺 光芳

KOZAKAI Mitsuyoshi

担当科目に関する一考察

——オンライン科目と対面科目の評価——

A Consideration of the Subjects in Charge

——Evaluation of online and face-to-face subjects——

小堺 光芳

KOZAKAI Mitsuyoshi

要旨：2023年度に関東の女子短期大学の秋学期に担当したオンライン科目（時事経済）と対面科目（投資シミュレーションと経済）の考察である。オンライン科目である「時事経済」では講義ごとにリアクション（Google Formにて実施）の一つとして学生自身に理解度を5段階評価してもらっている。また対面科目である「投資シミュレーションと経済」では講義ごとにリアクションペーパーを書いてもらっており、第9回講義終了時に講義開始からのこれまでの講義について理解度、難易度、満足度などを5段階評価してもらいGoogle Formにて回答送信させた。その結果両科目とも高い理解度であったこと、「投資シミュレーションと経済」は対面科目のまま実施されることが望ましいという結果となった。

キーワード：オンライン科目、対面科目、学生の反応

1. はじめに

2023年度に関東の女子短期大学の秋学期において担当したオンライン科目である「時事経済」と対面科目である「投資シミュレーションと経済」について考察する。「時事経済」では講義ごとにGoogle Formにてリアクションを回答送信させ、「投資シミュレーションと経済」では講義ごとにリアクションペーパーを書いてもらい回収している。

本レポートは、「時事経済」では理解度（理解度以外にも授業のポイントや感想・質問・意見などあり）について毎回5段階評価してもらい回収している。「投資シミュレーションと経済」

ではリアクションペーパーにて授業のポイント、感想、質問、意見などを書いてもらっているが理解度は設問として用意していなかった、そのため第9回講義終了時に講義開始からのこれまでの講義について理解度、難易度、満足度を5段階評価してもらい、その他「パソコンを使った対面講義ですが、『対面の方がいい』か『オンラインの方がいい』について回答してもらい、あわせてその理由もGoogle Formにて回答送信させた。その結果について報告を行う。

2. 「時事経済」と「投資シミュレーションと経済」のリアクション

2.1 「時事経済」のリアクション

オンライン科目「時事経済」のリアクション実施（本原稿執筆時点で第10回まで講義実施）

調査時期：講義ごと（水曜日 オンライン科目）

調査形式：GoogleフォームからWebアンケート

調査対象：関東の女子短期大学 時事経済 履修生

質問項目数：3項目（毎回同じ）

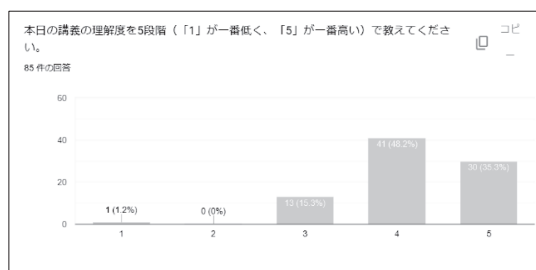
質問1. 講義のポイントについて（記述）

質問2. 講義の感想、質問など（記述）

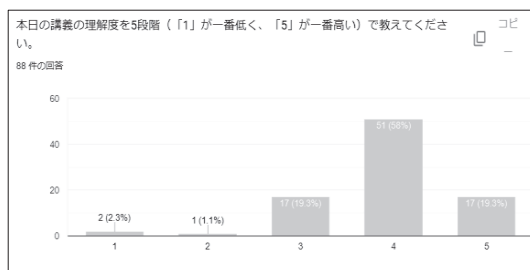
質問3. 理解度5段階評価（最高評価は5）

「時事経済」リアクション（理解度）9回の各評価の平均は「評価1：1.0%、評価2：1.3%、評価3：21.6%、評価4：53.4%、評価5：22.8%（四捨五入しているため合計は100.1%になる）」であった。評価4の53.4%と評価5の22.8%の合計が76.2%と高い数値を占めており、オンデマンド教材（YouTube）を視聴後の学生自身による理解度によれば、かなり高い割合で講義を理解していると感じていることが読み取れる。

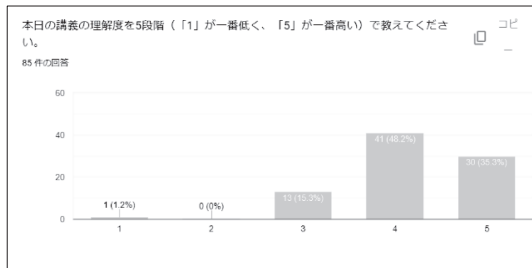
図表1 第1回 講義の理解度



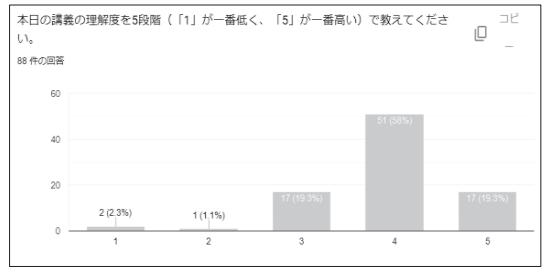
図表2 第2回 講義の理解度



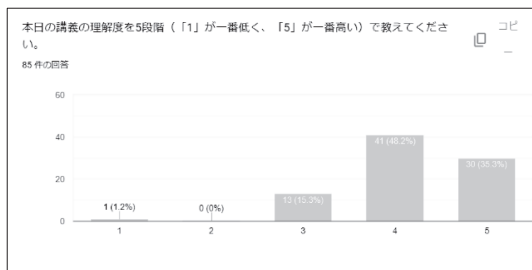
図表3 第3回 講義の理解度



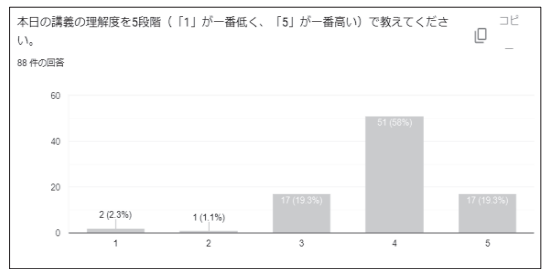
図表4 第4回 講義の理解度



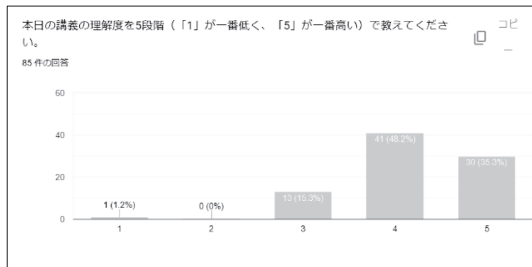
図表5 第5回 講義の理解度



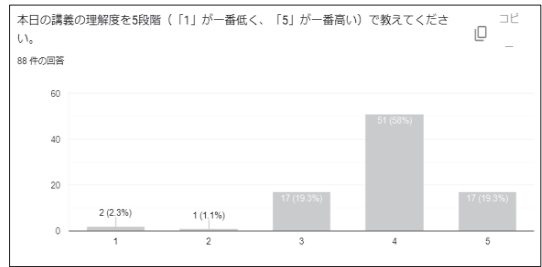
図表6 第6回 講義の理解度



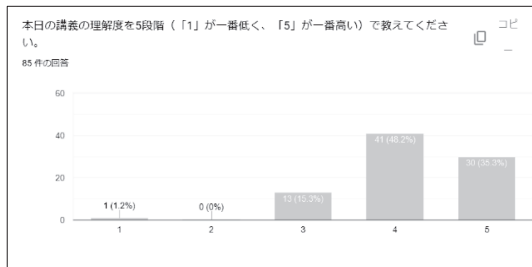
図表7 第7回 講義の理解度



図表8 第8回 講義の理解度



図表9 第9回 講義の理解度



2.2 「投資シミュレーションと経済」のリアクション

対面科目「投資シミュレーションと経済」のリアクション実施

(本原稿執筆時点で第10回まで講義実施)

調査日時：2023年11月30日講義ごと（理解度を確認するリアクションの実施）

調査形式：GoogleフォームからWebアンケート

調査対象：関東の女子短期大学 投資シミュレーションと経済履修生

質問項目数：5項目

質問1. 理解度 5段階評価（最高評価は5）

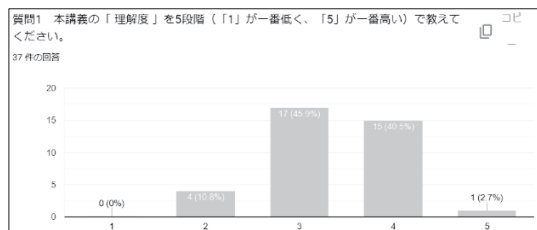
質問2. 難易度 5段階評価（最高評価は5）

質問3. 満足度 5段階評価（最高評価は5）

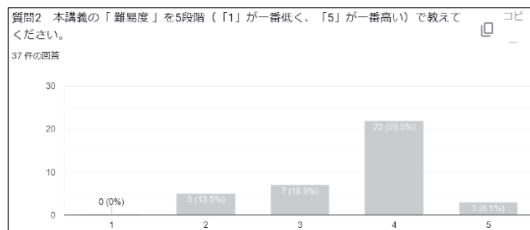
質問4. 本講義はパソコンを使った対面講義ですが、「対面の方がいい」か「オンラインの方がいい」について回答

質問5. 前問（質問4）の理由

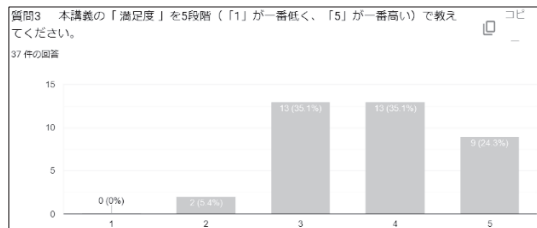
図表10 講義の理解度



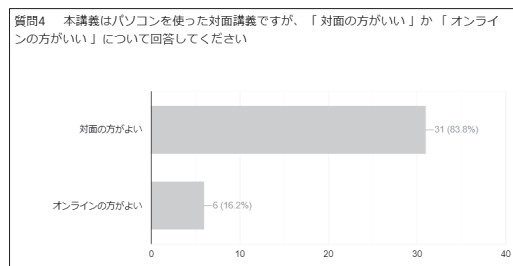
図表11 講義の難易度



図表12 講義の満足度



図表13 「対面の方がいい」か「オンラインの方がいい」



「投資シミュレーションと経済」のリアクションの結果は、理解度「評価1：0.0%、評価2：13.5%、評価3：45.9%、評価4：40.5%、評価5：2.7%」、難易度「評価1：0.0%、評価2：10.8%、評価3：18.9%、評価4：59.5%、評価5：8.1%」、満足度「評価1：0.0%、評価2：5.4%、評価3：35.1%、評価4：35.1%、評価5：24.3%」であった。

理解度の自己評価は評価1と評価2の合計が13.5%であり、評価3と評価4の合計が86.4%であったが、評価5が2.7%であったことと、難易度の自己評価がかなり高いことから難しいと感じている講義に対して何とかついてきている様子が見えてくる。さらに満足度は評価4と評価5の合計が59.4%と6割近い学生が高い満足度であった。

最後に「対面の方がいい」か「オンラインの方がいい」という問いに対して、対面の回答が83.8%であったことから「投資シミュレーションと経済」に関しては対面希望者が多いことがわかった。

3. リアクションについての考察

オンライン科目である「時事経済」は学生の自己評価であるリアクションの結果からは理解度が高い授業であることがわかった。ただしオンデマンド視聴教材の作成は非常に時間がかかり教員の負荷の高い科目であることから、他の科目との兼ね合いもあるが担当できたとしても半期で1コマ担当するのが限度ではないかと科目担当としては感じている。

対面科目である「投資シミュレーションと経済」は学生の自己評価であるリアクションの結果からは理解度は時事経済に比べれば低い講義の難易度から考えれば十分に高い評価であると言える。また満足度の評価も高く、学生は興味を持って受講していると言える。

「対面の方がいい」か「オンラインの方がいい」という問いに対しては圧倒的に「対面の方がいい」との回答であった。その理由の中に対面は「集中できる、時間が短く感じる」など、オンラインは「集中できない、おろそかになる」などの意見が散見された。

このことからオンライン科目である「時事経済」を対面科目とすることで、より高い理解度となった可能性もあると考える。あらためてオンライン科目の難しさを感じた。

4. おわりに

オンライン科目である「時事経済」は学生のリアクションの結果から理解度が高い授業であることがわかった。しかし実施されたリアクションはすべて学生による自己評価である。このことから理解度の確認には期末試験などの結果と比較する必要があるだろう。

対面科目である「投資シミュレーションと経済」は学生のリアクションの結果から理解度は比較的高い、難易度は高い、満足度は比較的高い、科目であることがわかった。しかし実施されたリアクションはすべて学生による自己評価である。最終的には期末試験などの結果との比較が必要になると思われる。

「対面の方がいい」か「オンラインの方がいい」という問いに対する回答はとても困難である。今回の結果からは「投資シミュレーションと経済」は対面を支持する声が83.8%と圧倒的であったが、デモトレードなどでパソコンを使用する科目であることも高くなった要因ではあろう。しかし理由を精査すると必ずしもパソコンを使用する科目だからとは言えない理由も多く見られた。教育においてもICTの活用が求められている状況はあるが慎重な姿勢を持って検討することの重要性が示唆されると思われる。